

### 基本的な考え方

年齢、性別、国籍、個人の能力等に関わらず、誰もが外出や活動を楽しむことができるよう、**心のバリアフリーの理解促進や当事者参画に係る取組を一層推進**することなどにより、**ソフト・ハード一体的なユニバーサルデザインのまちづくり**の取組を加速する。

### 福祉のまちづくり条例に関すること

#### 福祉のまちづくり推進協議会の運営（第14期：R5.2～R7.1）

- 専門部会を開催し、条例規則改正等について意見を聴取

### 福祉のまちづくり推進計画

#### 福祉のまちづくり推進計画（R6年度～R10年度）

- 各局158事業の進捗状況(R5末)を推進計画評価委員会で取りまとめ

### 福祉のまちづくり事業

#### ①福祉のまちづくりの普及・推進

- 条例施設整備マニュアル等の印刷・配布
- 福祉のまちづくり整備基準適合証の印刷・検索システム運営
- 知事感謝状の贈呈

#### ②心のバリアフリーの理解促進

- **都民向け集中的広報事業**  
(HP運営、広告・解説動画、ポスターコンクール等)
- 心のBFサポート企業連携事業（サポート企業/好事例企業登録・公表等）
- 障害者等用駐車区画の普及啓発（ポスター/カーコンパターの作成等）

#### ③情報バリアフリーの普及推進

- UDナビの充実と普及啓発（宿泊施設に対する情報発信支援等）
- トイレのBF情報のオープンデータ化
- **カラーユニバーサルデザインガイドラインの改訂に向けた検討【新規】**

#### ④ユニバーサルコミュニケーション技術導入に係る区市町村補助

- **ユニバーサルコミュニケーションに係る最新のデジタル技術を活用し、区市町村における情報バリアフリーの取組を促進【新規】**

#### ⑤地域福祉推進区市町村包括補助事業

- 公共トイレへの介助用ベッドの設置促進事業【R4単独事業を包括化】  
➢ 10/10補助、要件:適正配置、情報発信、適正利用の呼びかけ
- 障害者等用駐車区画の適正利用の推進
- 情報バリアフリーに係る充実への支援（BFマップ作成等）
- 心のバリアフリーに向けた普及啓発の強化への支援（出前授業等）
- その他福祉のまちづくりに関する基盤整備事業（道路/公園/建築物）  
➢ 補助要件:当事者等による事前の調査・点検等

# 心のバリアフリーの集中的広報事業について

## 事業概要

施設のバリアフリー整備に加え、ソフト面の取組として、全ての人が平等に参加できる社会や環境について考え、必要な行動を続ける「心のバリアフリー」への理解を促進し、共生社会の実現を目指す。

<目標> 都民の「心のバリアフリー」の認知度 令和3(2021)年度：**50.0%** ⇒ 令和12(2030)年度末：**75%**

## 事業内容（令和5年度の取組）

### 1 イメージしやすいキャッチフレーズとシンボルマークを設定

### 2 「心のバリアフリー」HPの開設（令和5年12月15日）

- ▶ 共生社会の実現を目指すための情報発信サイト
- ▶ 心のバリアフリーについて学べるコンテンツ

### 3 動画広告の配信（「心のバリアフリー」HPへの誘導）

- ▶ 子供（10～18歳）向け、一般向けに広告動画を作成
- ▶ 当HPに掲載するほか、YouTube等の広告配信を実施

### 4 「心のバリアフリー」に関する解説動画の制作

- ▶ 子供向けの「心のバリアフリー」の学習を補助する解説動画
- ▶ バリアフリー設備（公共トイレ）の適正な利用を促す動画

### 5 普及啓発リーフレットの作成

- ▶ 公共トイレの適正利用の普及啓発リーフレットを作成

### 6 ポスターコンクールの実施

- ▶ 小学生の部、中学生の部のそれぞれから最優秀賞を1点、優秀賞を5点選考し表彰する

○ キャッチフレーズとシンボルマーク

ハートとハードで、バリアをなくそう！



○ 『心のバリアフリー』HP



○ 一般向け広告動画



○ 子供向け解説動画



## 事業内容（令和6年度の取組）

- ◎ **動画による広告** ▶ 都内で実施されるイベント等で広告動画の放映 ▶ YouTubeやInstagram等にて広告動画を配信  
▶ 若年層（16歳～39歳）向けに著名人を起用した広告動画の作成（令和6年12月頃）
- ◎ **解説動画の作成**（見た目では分かりにくい障害者等への配慮、外国人等へのコミュニケーションでの配慮、障害者等用駐車区画の適正利用）
- ◎ **普及啓発リーフレットの作成**（障害者等用駐車区画の適正利用）
- ◎ **ポスターコンクールの実施**

# 「カラーユニバーサルデザインガイドライン」の改訂に向けた検討

## 現状・課題

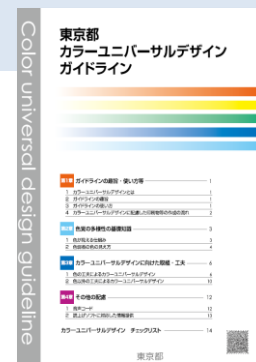
- H22にカラーユニバーサルデザインガイドライン（色覚異常のある人に配慮した色使いの工夫が中心）を作成したが、以降更新していない
- 高齢者(老眼・白内障等)、障害者(知的等)、子供、外国人も含め全ての人に、広報物がわかりやすく、読みやすくなるよう、情報保障が重要
- 文字の大きさやフォント、図表やイラスト等のレイアウト、やさしい日本語の活用等の要素も包含したガイドラインへのアップデートが求められる

## 事業内容

情報バリアフリーの推進に向けて、あらゆる人がアクセスしやすい広報物等について検討し、ガイドラインを策定するなど、情報アクセシビリティ確保の取組を推進 ※「福祉のまちづくり推進計画」に位置付け

### 《令和6年度の取組》

- 1 「カラーユニバーサルデザインガイドライン」改訂に向けた検討会開催
  - ▶ **学識経験者、色覚・白内障・知的障害等の当事者団体、印刷事業者団体等**で構成し、最新の知見を整理して検討
- 2 都広報物について、ユニバーサルデザインの考え方を踏まえて検証
  - ▶ 既存のパンフレット等を題材として、**印刷事業者団体等の知見をふまえ、試行的にデザインして効果を検証**
- 3 1, 2を踏まえ、既存の「カラーユニバーサルデザインガイドライン」を刷新し、広く周知
  - ▶ 庁内をはじめ、区市町村、民間事業者等へ広く周知し、ガイドラインを活用した広報物の作成を促進



## スケジュール（案）



# ユニバーサルコミュニケーション技術導入に係る区市町村補助

ユニバーサルコミュニケーションに係る最新のデジタル技術を活用し、区市町村における情報バリアフリーの取組を促進

## 目的

- **2025年に東京で世界陸上及びデフリンピックが開催されることを契機**に、国籍の違いや障害の有無に関わらず、「いつでも・どこでも・誰とでも」つながる街・東京を実現するため、各局で連携して**ユニバーサルコミュニケーションの取組を推進**していくことが必要
- 最新のデジタル技術を活用し、誰もが交流できる大会を創り上げるとともに、大会のレガシーとして技術の社会への普及を図るためには、都だけでなく様々な主体による取組が重要であり、情報バリアフリーの取組の一環として区市町村における技術導入を促進していく

## 実施内容

- **ユニバーサルコミュニケーション機器を導入する区市町村を支援**

予算額 : 82,000千円

対象経費 : 透明ディスプレイ等の機器導入に係る費用（機器導入費、音声文字化・多言語化のサービス料等）

補助基準 : 1 区市町村当たり3,000千円

補助率 : 2 / 3

### 【機器の例】

#### 透明ディスプレイ

音声をテキスト変換、多言語翻訳し、透明ディスプレイに表示する機器

⇒ 受付の会話を字幕によって伝達できるほか、キーボードによる文字入力で難聴者とのコミュニケーションも可能

#### 音声文字化サービス

会場アナウンスなどを瞬時に文字化・複数言語化し、大型ビジョンやデジタルサイネージ、選手や観客等のスマホに表示する機器

⇒ 災害時の避難経路案内などにも活用可能



<透明ディスプレイの例>



<音声文字化サービスの例>